

瘍が認められ、CT では鼻腔を占拠し前頭蓋底に及ぶ enhance 効果陽性の mass lesion が認められた。生検にて診断後、放射線治療を行ない、腫瘍は著明に縮小したが、その後骨髄を含む広範な全身転移が認められた。化学療法を施行した結果、骨髄穿刺上98%を占めた腫瘍細胞は0.8%に減少し、一時末梢血に出現した腫瘍細胞も消失した。嗅神経芽腫は、一般に進行が遅く全身転移はきたしにくいとされるが本症例は、骨髄を含む広範な全身転移をきたした点で、きわめて稀な症例と思われた。

62) 頭蓋外への伸展を認めた髄芽腫の再発例

小保内主税・高橋 明 (岩手医科大学)
 村上 寿治・遠藤 英雄 (脳神経外科)
 芥木 巖・金谷 春之

症例は5才、男児。昭和55年に右小脳橋角部腫瘍の亜全摘を受けた。組織診断は髄芽腫であった。昭和60年、右耳下腺部が腫脹、更に右VI、VII脳神経麻痺が進行した為、髄芽腫の再発を疑い、当科入院。入院時現症として右V～X、XII脳神経麻痺、右外耳道内及び右耳下腺部に腫瘍を認めた。CT 上、右錐体骨尖部を中心に、造影剤により増強される abnormal high density area を認めた。入院後、局所に50 Gy の照射を行う一方、CDDP、ACNU 等の化学療法を施行したところ、腫瘍は縮小、神経症状も改善した。髄芽腫が種々の転移、伸展形態を示すことはよく知られているが、本例の如き伸展形態は珍しいと考え、経過とともに文献的考察を加えて報告する。

63) Glioblastoma の髄腔内播種性転移
 — 自験例の検討 —

由良 茂貴・代田 剛
 苦米地正之・貝嶋 光信 (旭川医科大学)
 橋爪 明・関口ふく子 (脳神経外科)
 相澤 希・大神正一郎
 米増 祐吉

1978年当科開設以来組織学的に確認された glioblastoma 36例についてその髄腔内播種性転移に関し検討した。髄液細胞診を行った15例中9例(60%)が細胞診陽性で、さらに5例は播種による症状が出現した。この5例では1例を除き初発年齢は平均28.8歳と若く、また経過の長い例が多く、2例は初回手術の組織診断は astrocytoma grade II であり長期経過中に悪性化した例であった。全例髄液の蛋白値が100mg/dl 以上の値を示し、播種の症状として水頭症を4例に認めた。

glioblastoma の25%に剖検上、脊髄への転移が存在

したとの報告もあり、長期生存後の再発、髄液蛋白高値、水頭症の合併する例などでは播種を防ぎうるなんらかの処置を考慮すべきである。

64) 3世代にわたるクルーゾン病の1例

菅野 三信・荒井 啓晶 (帯広第一病院)
 金子 宇一 (脳神経外科)

クルーゾン病は、頭蓋骨縫合の早期癒合によっておこる craniosynostosis の一つで、頭蓋骨のみならず顔面骨縫合の早期癒合も来す craniofacial dysostosis であり、遺伝性にみられる事が多い。

今回我々は、3世代にわたるクルーゾン病の症例を経験したので報告する。症例は12才の男児で、視力低下を訴え、exophthalmus を指摘され当科を受診した。外観上、軽度の頭幅の拡大、両眼の離反と突出がみられ、頭蓋単純写でも著明な digital impression がみられた。この患者の母親、祖母にもみられ、3世代にわたる家族性のクルーゾン病と診断した。症例の呈示と若干の文献的考察を加えて発表する。

65) 巨大 encephalocystomenigocele の一例
 — 手術適応を中心に —

阿部 博史・土田 正 (新潟県立中央病院)
 森 修一 (脳神経外科)

症例は、妊娠末期に頭部奇形を疑われ、帝王切開にて出生した4020gの男児。外後頭隆起上部正中部の cranium bifidum に母指頭大の stalk を持ち、中に鶏卵大の脳組織を含む、14×12×10cmの巨大 encephalocystomenigocele である。全身の重症奇形はなく、CT 上他に明らかな脳の構築上の異常も認めず、更に一週間の経過観察で十分な生存能力が確認されたので、生後8日目に修復術を行った。その後水頭症が進行し、35日目に VP shunt を施行した。現在中等度精神発育遅延を認めるものの比較的経過良好である。

本例を通して、予後不良が予想される encephalocele に対する我々の手術適応を述べた。

66) 脊椎披裂児の直腸肛門機能の検討

坂本 哲也・米谷 元裕 (秋田大学)
 菊地 顕次・古和田正悦 (脳神経外科)
 萱場 広之・加藤 哲夫 (同 第1外科)

脊椎披裂児に対し、排便管理の目的で、直腸肛門内圧を経時的に測定しているが、今回は、形成術前後における内圧測定のパターンの変化を検討した。

対象は髄膜瘤6例、脊髄瘤14例、脂肪腫4例で、い

れも腰部あるいは仙部に発生していた。

結果①肛門管静止圧を Open tip 法で3型に、直腸肛門反射をバルーン法で4型に分類し得た。②病型と内圧のパターンに対応がみられた。③脳圧が内圧のパターンに影響を与えることが考えられた。④手術侵襲の程度をよくとらえることが出来た。⑤脊椎披裂児の排便のメカニズム解明には他の方法の導入が必要と考えられた。

67) Plagiocephaly の1例

大槻 泰介・富永 悌二 (国療宮城病院 脳神経外科)
 笹生 俊一 (同 脳神経内科)
 小川 達次 (同 脳神経内科)
 溝井 和夫・吉本 高志 (東北大学 脳神経外科)

症例は、9ヶ月の男児で、満期正常分娩、生下時より頭蓋の変形を指摘されていた。発育はほぼ正常で、入院時の頭部単純写では、左側冠状縫合とラムダ縫合の synostosis、患側眼窩上壁の挙上、顔面正中線の健側への屈曲等を認め、CT スキャンでは、患側前頭蓋窩の狭小化、蝶形骨大翼の変形、患側 frontosphenoidal suture の閉鎖等を認めた。

手術では、冠状及びラムダ縫合を含む craniotomy をおき、pterion 及び眼窩上壁後縁を drill out し、frontosphenoidal 及び sphenozygomatic suture の一部を開放した。

術前の病態の評価には、骨に適した関数を用いた CT スキャン、特に前額断が有用であった。

68) 3年後に発症した振戦と痙攣が頭蓋形成術により消失した外傷性骨欠損の1例

高橋 明・栃内 秀士 (岩手医科大学 脳神経外科)
 西沢 義彦・斎木 巖 (同 脳神経外科)
 金谷 春之 (同 脳神経外科)
 古川公一郎 (高次救急センター)

11才の男子。4年前交通事故にて受傷。本学救急センター来院時 GCS 4、両散瞳、両除脳硬直。CT では中脳周囲槽狭少と HDA 化、右基底核に 44ml の ICH を認む。血腫剝出と外減圧術を行い2ヶ月後 V-P shunt、頭蓋形成施行するも感染のため骨弁除去し GOS 3にて転医、Rehabilitation 中であつた。3年後の昭和60年9月ころから坐って30~60分後より右上肢に企図振戦発生。また約10分の Grand mal 発作が5~6回/日おこるようになる。

臥位では発生しなかつた。坐位では骨欠損部が陥凹し脳の変形が著明であつたため昭和61年2月レジンにて頭

蓋形成を行うと、振戦、痙攣とも消失した。右前頭部を中心とした脳波異常、ABR も著明に改善した。

69) 脳神経外科術後の肝機能障害

今泉 俊雄・上出 延治 (札幌医科大学 脳神経外科)
 堀田晴比古・太田 潔 (同 脳神経外科)
 滝上 真良・田辺 純嘉 (同 脳神経外科)
 端 和夫

脳神経外科領域では、術後肝障害をきたす頻度が高く、治療経過を長引かせることもある。術後肝障害の原因及び経過について検討した。当科における過去5年間の手術症例439例中23.5%に肝障害が出現したが、性差はなかつた。35から55歳の年令、腫瘍、AVM、動脈瘤例、麻酔6時間以上の例、輸血例、多薬剤併用例に頻度が高かつたが、抗生剤、抗けいれん剤、抗潰瘍剤で、統計学的に有意に肝障害を引き起こす頻度の高い薬剤を見出すことは出来なかつた。術後肝障害は、術後2週以内に9割が発症し、軽度なものが大部分であつたが、黄疸を呈するものが6例あつた。術後肝障害発生には、多種の因子が関与しているものと考えた。

70) ACNU 頸動脈投与により視力・視野障害をきたした1症例

森本 繁文・大滝 雅文 (札幌医科大学 脳神経外科)
 上出 延治・今泉 俊雄 (同 脳神経外科)
 滝上 真良・田辺 純嘉 (同 脳神経外科)
 端 和夫

71) くも膜のう胞に伴った慢性硬膜下水腫の術後に、多発性脳内血腫を生じた一例

森 宏・寺林 征 (富山県立中央病院 脳神経外科)
 北沢 智二・新井田広仁 (同 脳神経外科)
 山本 潔・杉山 義昭 (同 脳神経外科)

症例は49歳男性。頭痛を主訴として当科を受診。神経学的に陽性所見を認めず。頭部 CT にて左中頭蓋窩くも膜のう胞に硬膜下水腫を伴った所見を認め、硬膜下水腫除去及びくも膜のう胞開放術を施行した。ところが術後覚醒が得られず瞳孔不同が出現した為、急拠頭部 CT を再検した所、テント上下に多発性の脳内血腫の所見を認め、ステロイド剤及び脳圧下降剤にて保存的に加療したが、右片麻痺及び失語症を残して退院した。従来より推奨されているのう胞開放術がこのような合併症を助長する可能性があり、硬膜下水腫あるいは水腫のドレナージ術に留めるべきであると報告があり、発生機序及び治療方針について更に考察を加え報告した。